



平成24年度 事業計画発表会

年度方針を発表する、事業計画発表会が開催されました。これは、黒田院長より、今年度、私たちが向かう方向と新たな目標について発表、周知され、職員で共有する会です。3月に行われた管理職者泊り込み研修での事業計画立案も含め、内容が練られてきました。

そして今年のキーワードは「次世代阪南病院 絆そしてchange management」人與人、人と病院、病院と関係機関、関係機関と地域、地域と病院など、内外での

太い連携を進め、「認められる存在になる」ために絆を深めます。精神疾患が5疾病5事業に入ったことから精神科医療の必要性が高まっています。そして日本の精神科医療の方向に沿い、阪南病院は急性期重視で地域移行を促進します。救急には、さまざまなリスクも伴いますが、それでも教育や地域の中核病院として、公益性、公共性に努めるには必要な機能です。そして実行する以上は24時間365日が私たちの使命です。と説明がなされました。

これを受け、続く4月21日と5月12日には部門別の事業計画が発表され、7部門43セクションの事業計画が発表されました。5月12日には同時に委員会、会議の事業計画も発表され、全体の計画を共有した上で連携を深め24年度事業を進めていきます。

基本方針

人 権を重んじ、患者さんやご家族の「心のふるさと」になれるよう、患者さんの立場に立ったやさしい医療をおこないます。

最 新の医療知識と技術を身につけ、予防から急性期治療・リハビリテーション・在宅支援まで継続的な質の高い医療を提供します。

光 と風と緑」にあふれた、安全で快適な療養環境を提供します。

地 域の拠点病院として、行政機関や病医院・地域の方々と連携し、保健・医療・福祉に貢献します。

信 頼される医療サービスを提供するために、経営の健全化につとめ、すぐれた医療従事者を育てます。

院内

花

院内の花が一段と美しく咲き競う季節です。
美しい花の季節をお楽しみください。



だ
よ
り

光風緑

つつじ

開花時期は、4/15～5/15頃。
躑躅は万葉集の時代から親しまれており、花が連なって咲くことから「つづき」、また花が筒状であることから「つつ」などと呼ばれていて、次第に「つつじ」になったようです。道路の歩道脇によく植えられています。
種類も色もいろいろあり現在300種を超える園芸品種があります。

外来診察表

外来診察時間 / 9:00 ~ 12:00(受付は11:30まで)

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 診 察 | 1 診 | 黒田 | 柏木 | 中井 | 横田 | 黒田 | 横田 |
| | 2 診 | 松島 | 野村 | 松島 | 野村 | 横井 | 横井 |
| | 3 診 | 西側 | 澤田 | 植田 | 澤田 | 西側 | 植田 |
| | 4 診 | 福田 | 子安 | 正路 | 橋元 | 西岡 | |
| | 5 診 | 佐野 | | 川村 | 宮里 | 秋田 | |
| | 6 診 | 呉家 | 和田貴 | 吉田綾 | 吉田綾 | 土井 | 呉家 |
| | 7 診 | 村上智 | 村上智 | 小深田 | 和田大 | 作田 | 小深田 |
| | 8 診 | 西村 | 山田 | 西村 | 河野い | 相馬 | 和田大 |
| 心 1 | 熊取谷 | 河野隆 | 作田 | 三秋 | 岩田 | 熊取谷 | |
| 心 2 | 宋 | 植月 | 荒川 | 清水喜 | 宋 | 植月 | |

ご紹介いただく際は予めご連絡をお願いします
専門外来(睡眠・児童・往診・女性・口腔)は予約制です
医療機関からの入院・転院のご相談は地域医療連携室で承ります。
受診の前に下記へお電話ください。
電話 072-278-0381 FAX 072-281-6615



診療科目

精神科 / 心療内科 / 児童精神科 / 内科 / 歯科

病床数

EPU 精神科救急 病棟 168床 (C1,H2,H3病棟)
児童精神科病棟 25床 (D1病棟)
亜急性期病棟 120床 (B2,C2病棟)
メンタルケア病棟 51床 (E2病棟)
メンタルケア病棟 35床 (E3病棟)
リカバリmix病棟 60床 (D2病棟)
老年期精神疾患病棟 60床 (D3病棟)
MPU 精神科合併症治療 病棟 51床 (H1病棟)
リハビリ 精神療養 病棟 60床 (F2病棟)
認知症治療病棟 60床 (F3病棟) 計690床

看護体制

精神科病棟 15:1 急性期病棟 13:1 救急病棟 10:1
看護師比率70%以上・看護補助 30:1

関連施設ご紹介

認知症疾患医療センター
訪問看護ステーションふれあい
居宅介護支援事業所
ヘルパーステーションはんず
ケアホーム / こもれび・青空・そよかぜ
堺市中区八田南之町277 阪南病院内 電話072-278-0381
ケアホームあんずの郷
堺市中区八田北町309 電話072-278-2233
地域生活支援センターゆい
堺市中区深井東町3134 電話072-277-9555



当院は敷地内完全禁煙です



NSTラウンド

NST(栄養サポートチーム)とは患者さんの栄養状況を把握し、食事の摂取量や必要量を評価し、調節して提供する管理栄養士、薬の管理をする薬剤師など、各専門のスタッフ達がそれぞれの知識や技術を出し合い、例えば低栄養など栄養管理が必要な患者さんにとって、一番良い方法で栄養支援をするチームの事です。現在は認知症病棟など摂食障害などのリスクの高い3病棟を対象に週1回のラウンド(病棟回診)を実施しています。特に問題のある患者さんとは、実際にコミュニケーションをとりながら身体状況の把握や嗜好調査を含めた栄養評価を行います。

患者さんの栄養面でのサポートは重要で適切な栄養管理が行われていなければ、いくらきちんとした治療がなされていても、回復が遅れてしまいます。栄養...私たちにとってもとても大切なものです。栄養が不足したり偏ってしまうと、様々な病気の原因となってしまいます。では、栄養管理とはどのようなことなのでしょう?一度しっかりみつめてみましょう。



ECOニュース

今夏の電力量が心配されるものの、日々季節は進み、夏日を思わせるような日もあります。当院では昨年7月よりエコへの取り組みを積極的に行っています。

患者さんのご迷惑にならない程度に、節電・節水を進めています。そして関西エコオフィスとして登録をしています。これは事業所を対象に関西広域連合が展開する活動で、節電、節水、緑化、適正冷暖房温度設定、ごみの再資源化など10の項目への取り組みが評価されます。また、登録事業所は「地球環境にやさしいオフィス」としてホームページで紹介される予定です。

皆さんもさまざまな節電を実行されているかもしれませんが、夏を前に、電気に頼りすぎる生活を改めて考え直してみませんか? 節電にご協力ください。

Arts in Hospital

アートインホスピタルとは、病院という特別の場所にあって、こころとからだにやさしい環境・空間を創ることをいいます。当院ではこの世界的な概念を取り入れ、来院される全ての方にやさしい和みの環境を提供しています。オブジェや、風と香りのぬけるハーブの庭、窓のない地階に青空を思い出す窓の絵、ハーブの匂袋、ヒノキや菖蒲湯など、その方法はさまざま。つまり、病院での生活環境全てがアートインホスピタルであり、気温や風、土の匂いやリネンの感触など感覚を呼び起し、こころを豊かにするもの全てを対象とし、方法としています。



この概念を学び、庭園療法の技術を学ぶために、院内で職員対象の講座を開いています。すでに看護やOT活動に取り入れはじめていますが、トレーナーを養成し、院内外へ積極的にアピールし、拡げていきたいと考えています。少しでも患者さんの選択肢や楽しみが増えればと願っています。



羽曳野支援学校 阪南病院分教室開所



児童精神科病棟運営に際しては、教育の場をどう作るかが、課題のひとつでした。義務教育年齢の子どもたちに馴染も含めた教育体制を持つために、開設当初より、大阪府南部を管轄する羽曳野支援学校から訪問教育を受ける形で学びの環境を作ってきました。

そしてこのたび、訪問教育から院内分教室になりました。精神科での分教室設置は全国的にも例のない珍しいことで、当院にとっても意義深い大変名誉なことです。

開所にあたり、大阪府や堺市の教育委員会及び、大阪教育大学、大阪府立大学よりの来賓を迎え開所式が執り行われました。4月6日(金)15時、多目的ホールには来賓13名、羽曳野支援学校より西上優子校長他15名、D1病棟児童10名とご父兄1名、院長先生他病院スタッフ55名という90名を越す盛大な会となりました。開式の発声に続いて国歌斉唱、羽曳野支援学校歌斉唱と緊張感の高いスタートでした。会は学校長挨拶、病院長挨拶、ご来賓挨拶、ご来賓紹介と粛々と続き、約30分で閉会となりました。正面に座っていた子どもたちは退屈そうな場面もありましたが、全体的に真剣に会へ参加していました。卒業式や入学式など、子どもたちの方がこういった会に慣れているのかもしれませんが、開所式では、羽曳野支援学校西上優子校長より、「阪南病院から昨年2月に訪問教育について要請をいただいてから、子どもたちの成長と育成を大切に、教育を行ってまいりました。さらに、病院と協力して子どもたちを見守りたいと考えています。」とご挨拶いただきました。

尚、開所式には、朝日新聞からも取材が入り、翌日4月7日(土)朝刊で紹介されました。

児童精神科領域研究会

毎月続けている研究会は、6月には静岡県立子ども病院 こどもと家族の心の診療センター長山崎透先生を迎え、講演会を行います。

20年以上にわたり、児童精神科の入院治療と子どもを育む病棟運営に情熱を傾けておられる大変高名な先生です。

ぜひ、多くのご参加をお待ちいたしております。

